

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2016年6月期オランダ出張報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

6月4日～6月11日までオランダへ出張してまいりました。ご報告いたします。

6月～7月は、日本の球根輸入会社（主に百合球根）の展示会シーズンです。

元々5月がオランダにおける百合展示会時期でしたので、オランダ側の展示会スケジュールが変更となった為、夕べな状況となってしまいました。出張前も出張後もやたらに忙しい状況になってしまい、報告が遅れてしまいました。

当社試験温室/新潟レクシヨシリフプロジェクト（魚沼隔離・半雨よけ露地栽培）ともにピークを迎えつつあります。「撒いた種の芽」が出始めました。ぜひご確認ください。すごいですよ！球根産地別・球根生産方法別・各系統別の差も分かりやすく見てとれる年となっています。

今回のオランダ訪問は…、

近年ではちょっと経験に無い、ゆったりゆっくりした日程となりました。

滞在していた7日間の内、午後7:30前にホテルに帰れた日が何と3日もありました。

6月のオランダは、夜10時を過ぎても明るい時期。日の暮れない内にホテルへ帰ることが出来た記憶が、あまりありません。

いつもはきついオランダ出張ですが、こういう事もあるんだなあと思いました。

訪問した百合球根輸出会社

PO社/JW社/DJ社/BOT社/ZP社/VWS社/VDZ社/ST社/VZ社/VDB社、計10社(全て百合の関係会社ではない。)

訪問した百合育種会社

Vletter社/VZ社/MAK社/WF社/DJ社/GAV社/Marklily社/LilyCompany社(LilyCompanyは育種会社ではないのですが…。)

打ち合わせを行ったオランダ・フランス・ニュージーランドの球根生産会社及び諸外国球根輸入会社、計12社(全て百合産業関係者です。)

同一期間にオランダの百合産業に関わる会社が、展示会を開催していただいているおかげで、短い滞在期間ながら大勢の方々・様々な立場の方々と情報交換が出来るので、ずいぶん便利になったなと思います。

今回の感想は…、

「3～5年前にまいた種が」様々な場所で「芽をふき始めたのかな？」

「芽」が出始めたのは本当にうれしく思います。きっと2～3年後には「花」が咲く事と思います。

3～6年後には、「咲いた花」から「実をつけて」、「私たちが収穫できる実が本当においしい実」になってくれば良いなあ～。

そんなことを感じる事が出来た出張だったと思います。

1) A. H/L. A 系

1) 小球多花性が増えてきました。

- 2) 苦土欠に弱い品種が減ってきている様です。
*球根農家の栽培技術が向上したおかげなのかもしれません。
3) 花保ちが良くなっています。
4) 最終花開花性の良い品種が出てきています。
*上記4点は、各育種会社とも明らかに改善してきています。

5) スピートのある品種が出てきました。

*全ての会社で出来ているわけではありませんが、これは素晴らしい進化だと思いました。

振り返ってみれば、A.H中心時代からL.A中心に変わって、冬場の切花栽培日数は平均で10日~2週間くらい長くなっていました。それが、5日~1週間くらい平均到花日数が短くなることは、産業的にはものすごい改善だと思います。

ただここに到達するまでに約20年かかっています。一人の会社員の職業人としての人生約半分ですよ！辛いですね？長すぎますよね？

でもそれが百合の育種速度なのです。

6) 半八重や変わり咲き、変わった花色の品種で、強健な品種が出てきています。弱い品種は前からちよろちよろと…。

これも素晴らしい。

ワングの球根農家・百合切花農家の中では、ここ近年どちらかと言えば景気が良く、前向きな話をしてくれるのがA.H/L.A球根生産/切花生産者だなと感じています。彼らは人の話を良く聞いてくれます。

O.H/O.T系は、方向性模索中。混沌としています。

7) 「高性種」であって「蕾肌・強健種」の登場！

*ついに出た！という印象です。夏場の産地作型用の品種更新を薦める準備が始まりました。

素晴らしい！キーワードは、「物流耐性」・「切花保管耐性」

計画生産・計画販売の実効性が高められるだけの球数が確保できるようになってきたのです。

これは本当に良かった。「黄」「ピンク」に注目です。

どちらも150,000球、70,000球もいきなり取扱い可能！見落とさないで下さいね！

2] L.O/L00/LL0/LOOT/TA←注目！などなど、様々な種間交配

様々な実験的取り組みは、何年後に芽が出るのか？もう芽は出たのかなあ？

育種会社は、この「カテゴリ」…妙に力を入れています。

確かに、時々話題となる品種が出ますよね…。ゴールデンエアやパンゲア、トビ・フト…。

彼らの狙いはどこにあるのでしょうか？

3] 鉄砲百合類

ブライトター・ビクターの球根品質は良かった様に思います。(15年産。)

新しくもう一品種ターシーズ開発中の様でした。

世界市場においては、鉄砲百合の人気はやや(残念ながらかなり…) 下降気味。特に小輪多花咲きタイプではなく、大輪少花タイプが世界消費の傾向となっている為、新品种の開発・発表はされてはいるのですが、どれも輪付きに難点有りの様です。

せめて抑制作型で16/18サイズが使えないと…キツイですよ。

本来鉄砲百合に分類すべきではない事を承知して(いわゆる異種間交配種)、ピンク鉄砲・黄色鉄砲・アブリコットオレンジ鉄砲まで出揃いつつあります。赤色鉄砲百合の生産がなくなりました。残念です。

球根ドライセル市場の為には、花色が増えるのは良い事かな？

アブリコットオレンジ系は、生産停止になりそう！残念です。目下、再スタートを要請しています。

40. T系

私個人的な視点は、大きく見方を変えざるを得ない年となってしまった様子です。

この際はっきりしておいた方が良さそうなので…。

①14/16サイズが使えるO.Tが必要。

②小中輪系多花性品種が必要。(同時開花の特性がまだ解消できないのなら。)

③大輪系輪付きの悪い品種は、球根農家の為にも切花農家の為にも、長い目で見て、営利性を高めることはほぼ不可能だとはっきり認識するべき。

現状ではそういうタイプの品種がほとんど。

新発売されてきている世代でも、その点を改善してきている育種会社はあまり見えてきません。

18/20サイズを使っているでも3~4輪が生産されてしまう可能性がある事はあまりにもリスク…。

怖くて20/22サイズ以上しか使えないとしたなら、その球根は球根農家・切花農家にとっても作りやすくて営利性・生産性が高いとは言えませんよね…。

育種会社試験温室に植え付けられている球根サイズが、例年より明らかに大きかったように思います。使われている球根は、通常生産球ではないにせよ…。

確かに、球根は太りやすい・強い。あまり上手ではない切花産地(日本以外の国。作型によってはもしかしたら日本でも…)でもまあまあの品質のモノは作れますが…。

15年産球根/16年切花において世界のOT切花農家はものすごい冷水を浴びた様子。

15年産O.T系早期定植分は、輪付きが悪い。(後期作型分について、どんな結果となるかは、まだ解らない。)

15年産の球根生産時の気象要因から発生した現象だという認識ではいますが、年次変動でこれだけの問題が出るのはやはり問題でしょうね…。

今回の新品種発表分だけではなく、現在選抜中の温室まで見せてくれた育種会社は(O.T系選抜温室。普段はあまり入れてくれない。)、たった3軒(Vletter社・V.Z社・W.F社)。

他の日本人で入った人いるのかな…?

白系

世界市場では(日本を除く)、白色大輪、上向き5~6輪90~100cmというニーズは少ない。

そしてそれらの少ないニーズの中で更に、切花という商品に要求されている課題は、物流耐性・保管耐性。(白色については、各国のニーズは共通。)

それらのニーズが果たして白色O.T系開発目標の中にちゃんと入っているのか?(期待できる育種会社はある!)

16年産球根をベースに考えた時、白色O.T系品種の中で依然「これはザンパジを超えそうぞ!」と感じられた品種は少なかった様です。(ザンパジは、上向き・香り少なめ・花粉の退化がO.H系よりも遅く、花弁を汚しにくい等、素晴らしい特性がある。この特性は最近の育種目標に入ってきた。)

各育種会社での改善点として感じたのは、蕾の角度が良くなったこと。蕾肌の強度が増してきている様に見えた事でしょうか。

ピンク系

ザンパジについても必ずしも輪付きが安定しているとは言えませんが、他と比べればまだ遥かにマシな方です。同様に、テーブルダンス・スーパーマスター・レリ・ラブラドルetc.あたりが最低ライン…。

芽伸ばしをしない作型、南半球産はともかくとしても、北半球産抑制作型(芽伸ばし・プレイング作型)である程度輪付きが期待できる品種って…?

O.T系の開発速度・進化速度は、明らかにL.A系開発速度より時間がかかるように見えてきました。

日本向きの花色は、出てきている様です。

ただ、今更ピンクステップやミツニより輪付き悪いとなると…。

黄色・赤系

そういうわけで、輪付きの良いO.T系がいち早く登場するのは、これらの花色からという事になります。今回一番注目度が低かったMAK社ですが、この会社から発表された黄色・赤系・ピンク系(殆どがライセンス販

売済)は、0.H系並みの仕事をしてくれそう。極めて期待値の高い品種が発表されてきています。

見落とせません。

一斉開花しない赤色0.T系が当社温室にて咲き始めました。他の品種が2輪/3輪同時に咲くのに、この品種はこんなに暑いにもかかわらず1輪づつ咲いていきます。

すぐくないですか？もう当社価格表に乗っていますよ！

5 0.H系

笑い話のような話の一つ。

アジア諸国から今回のリーダーズ（オランダ 百合関係社共同展示会）に参加した方々の視察ポイントは、どこまでも0.T系だったそうです。

今回初の試みとして、PO社がとった人気品種アンケート結果も

1：テブルダンス（ピンク：0.T）

2：バルビール（黄色：0.T）

3：ボンバスティック（黒赤：チョコレート色？0.H）

だったとの事。

ところが…、

今回の展示会開催期間中に、アジア諸国から実際16年産オランダ産百合球根発注契約が多かった品種は、シバリア（白：0H）、リボンヌ（ピンク：0.H）だったとの事。（黄色：0.T、赤0.T、赤0.H系の取引は既に終盤戦となっていた。）

シバリアについては、世界総生産球数推定約1億4千万球とされている球数が、北半球産を中心に全体で1千2百万球～1千5百万球作付減少すると言われているので、ある意味想定とおりでしたが、リボンヌまで早々に動き出したのはちょっとビックリ！

確かに作付は減少するとは聞いていますが…。

これも輸付きの悪さが影響しているのでしょうかね？

0.H系については…当社の考え方・見方は一貫して変えていません。

①早生・中生系到花日数品種を探す。

②酷暑期耐性・物流耐性・切花保管耐性を意識し続ける事。

③小中輪系多花性上向き種。

白で言えば、シバリアのカテゴリー。

日本市場は、シバリア系の花消費と上向き白大輪系花消費のカテゴリーは、分けて考えていかないとダメだと思います。

そうしないと、きちんとこちらの要望が育種会社や球根農家に全く伝わらない可能性が高い。

今年日本人が注目した育種会社の0.H系については、「水上げ注意だぞ。」と解っています。（誤解を招きたくない…。）

そういう意味では今回5月発行した『球根情勢報告』に掲載したシバリアの分析は極めて有効でした。

彼らにはその視点が無かったからです。考え方を整理して行く為には良い情報整理だった様です。

④上向き大輪系。

既に様々な品種が発表され流通し始めていますが、私の認識では、酷暑期対策・物流対策・切花保管対策が十分に取れている品種は少ないと考えています。

今回の訪問時に調査確認してきた事は、ここ数年訴え続けてきたことが徐々に形付けられてきているかどうかという事です。

*種は撒いてあるのです。

*芽は出始めている様に見えます。

*花が咲くのを待つのみです。

*おいしい実を皆で収穫出来たらよいなあと考えています。

6) O.H八重系

ロイヤル系・ローズリリー系の2会社が先行していました。

- 1) ロイヤル系=マジックスター・マウティングは、人気がある様です。
- 2) ローズリリー系=イベラ・エラの次の世代が出始めるようです。
- 3) 他育種会社がこのカテゴリーに参入してきています。

既に先行して、Vletter社発表のノーボートの流通が始まっていますが、昨年から今年にかけてJ.W社開発の「アスカ」を親の系統に持つVletter社開発の八重O.H系が大量にライセンス販売され始めています。

私が認識しているオランダでも、TOPクラスにランキングされている球根栽培農家が、ライセンスを購入し始めています。

ロイヤル系・ローズリリー系を「品種パッケージ」で販売する事が難しくなってくるのかもしれませんが。

今回Z.P社の案内で、ローズリリー展示温室を確認してきました。

Z.P社/VDB社の温室内品質とはまた違ったものが見れたように感じています。

早くも良い品種を見極めるステージに入ってきた様です。

**当社温室では今週末から、魚沼隔離においては10日~2週間後に開花ピークを迎えます。
よろしくご確認ください。**

最後に、16年産球根生産状況/作況について大切なお知らせがございます。

南部オランダ（東ブラボント・北リンブルグ・西リンブルグを中心に、現在南リンブルグにも拡大中。）にて、集中豪雨による圃場冠水被害が確認され始めています。（3年前にも大きな被害が出ている地域。）

ブラボント・リンブルグは、オランダで最も大きなO.H/O.T系球根生産地帯です。（900~1,000ha）

圃場冠水した畑は、約3週間蓄取り・薬散等の機械作業が出来ない状態との事。

被害面積については現在調査中。人間の足が40~60cmもぬかってしまう状態が確認されているとの事。
集中豪雨の地域は、極めて限定的という話でしたが、南部リンブルグまで拡大していくとなると…。

詳しくはお取引のある球根業社様から確認してください。

とは言っても輸出業社も現在調査中なのですが…。

とりあえず…

V.Z社自社農場は、西ブラボントにある為、被害は最小限との事。

東部地区は、春先の天候不順により、作付遅れ。現在は干ばつ気味で、水が足りていない様子。

16年産は、球根生産地毎に品質上抱える問題がかなり違ってくるのでしよう。

特定品種の欠品は、避けられないかもしれませんが、しっかりと代替品種の確保をしていく様、準備を進めます。

やはり、生産地を把握する事の大切さが際立ってきましたね！

ただのオランダ産という枠では、もう片付けられないのかな？

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。



以上
森山 隆

<http://www.lily-promotion.jp/>
私共はLily Promotion Japanの趣旨に賛同し
協力・応援しています